

(株) 日本政策投資銀行社長 室伏稔の役職員向け年頭挨拶 (要約)

民営化して初めての新年を迎えるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

当行は民営化の結果、収支相償を前提とした政策金融の業務から、お客様の企業価値向上の果実をお客様と分かち合う、収益を意識した業務へと軸足を移し、自律的な経営計画に基づき業務を行うようになった。また活動エリアが全世界に拡大するなど、活動領域が大きく広がっている。

そうした中、世界的な金融危機という状況下、経済対策の一環として「危機対応業務」を行うよう、麻生総理や中川財務相から要請があった。

これは当行のこれまでの業績が評価された結果でもあるが、このような局面において、従来から培ってきた私たちのDNAを発揮できる業務そのものである。お客様からの信頼に応えるためにもしっかりと取り組んでいきたい。

一方、昨年末に発表した2008年9月期決算は、残念ながら当期純損益が△276億円と大幅な赤字決算となった。今回の赤字については真摯に受けとめ、リスク管理の高度化などの対策を講じて、今後民営化機関として十分な結果を出していかなければならない。

今年は次の3つの課題に取り組んでいきたい。

第一は、多様な案件に対応するため、リスク管理の高度化に取り組んでいきたい。

第二は、更なる「カスタマーファースト」の徹底。お客様第一主義を徹底することにより、「金融力で未来をデザインします」という企業理念を具現化していきたい。

第三は、海外業務への取り組みの本格化。昨年12月にはシンガポールに現地法人を設立したが、今後はアジアにとどまらず、様々な国々を視野に入れていかなければならない。海外業務については国内以上にリスク管理を適切に行い、着実に経験を積むことを前提に、若い人たちにもチャレンジしていただきたい。

今年の干支の「己丑」は、混乱しているものを正し、新しい方向へゆっくり歩き出すという意味があり、将来の飛躍に備えるべき年ともいえる。牛のごとく粘り強く、そして困難に耐えつつも前向きに進んでいきたい。

以 上